

攻殻機動隊

GHOST IN THE SHELL

THE MOTION PICTURE

SEX love machines 2029A.D.

公安9課の美人エージェントが
テロ犯罪者達の手には墜ちる

触手陵辱フルブルズCG集第48弾！！

Win 5/98/ME Win 2000 16MB Memory 800x600 65536 Color 白丸増 自チート 16MB CG集 成年向

お買い上げありがとうございます

このCD-ROMには、あ
「触手に襲われる女の子」を題材

このCD-ROMに掲

18歳未満の方は

また、これらのCGを見て生

当方は責を負いかねますので

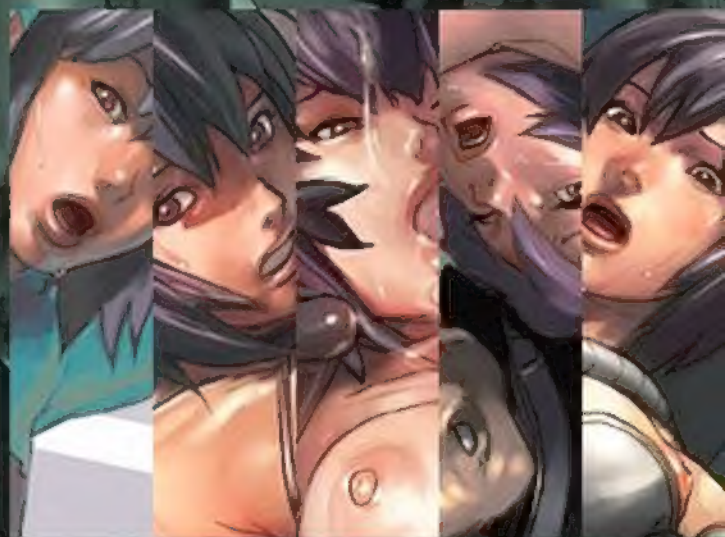
表示環境は、1024X768ピクセル以

動作確認は、ネットスケープコミュニケーターVer4.7、

フレーム表示非対応のブラウザ(インターネットエクスプロー

また、掲載されている文章・画像・その他は、ありがとうございます、および、それぞ

掲載されているCGの中に描かれているものはすべてフィク



クリックすると大きな

奥

Staff 3DL

小説作家 B

イラスト JINNY

編集・デジタル加工・HT

パッケージ作成

書名: 攻殻○動隊

管理者: LolitaChannel <http://www111.sakura.ne.jp>

2006年8月



攻殻○動隊

ありがとうございます。

かりがせしんじが製作した
材としたCGが収録されています。

載されているCGは、
閲覧いただけません。
たいかなる問題に対しても、
、あらかじめご了承ください。

上 24ビットカラー以上 を推奨します。
インターネットエクスプローラー Ver5.0 で行っています。
ラー Ver2.0等)では、正しく表示できない場合があります。
れの制作者様に著作権がありますので、無断利用、転載等はお控えください。
ンションで、実在の個人・団体等とは何ら関係がありません。



画像が現われます

付

・ ARIGASE

Jack-Cu 様

兼 FANTOM 様

ML 作成: SINJI・ARIGASE

・ SINJI・ARIGASE

家はあはるCG 家

/arigase/ arigase@pastel.ocn.ne.jp ありがせしんじ

113日発行

IEKO SOFT

Girls Soft Circle

Copyright (C) 2003/2004

動隊

お買い上げありがとうございます

このCD-ROMには、あ
「触手に襲われる女の子」を題材

このCD-ROMに掲

18歳未満の方は

また、これらのCGを見て生

当方は責を負いかねますので

表示環境は、1024X768ピクセル以

動作確認は、ネットスケープコミュニケーターVer4. 7、

フレーム表示非対応のブラウザ(インターネットエクスプロー

また、掲載されている文章・画像・その他は、ありがせしんじ、および、それぞ

掲載されているCGの中に描かれているものはすべてフィク



クリックすると大きな

奥

Staff SNU

小説作家 B

イラスト JINNY

編集・デジタル加工・HT

パッケージ作成

書名: 攻殻○動隊

管理者: LolitaChannel <http://www111.sakura.ne.jp>

2006年8月



攻殻○動隊

ありがとうございます。

ありがせしんじが製作した
素材としてのCGが収録されています。

掲載されているCGは、
閲覧いただけません。
たいかなる問題に対しても、
、あらかじめご了承ください。

上 24ビットカラー以上 を推奨します。
インターネットエクスプローラー Ver5.0 で行っています。
（Ver2.0等）では、正しく表示できない場合があります。
この制作者様に著作権がありますので、無断利用、転載等はお控えください。
本サイトで、実在の個人・団体等とは何ら関係がありません。



画像が現われます

付

・ ARIGASE

・ Jack-Cu

・ FANTOM

ML作成: SINJI・ARIGASE

・ SINJI・ARIGASE

・ あはあCG

arigase@pastel.ocn.ne.jp ありがせしんじ

113日発行

IEKO SOFT

Girls Soft Circle
Copyright (C) 2003/2004

動隊

お買い上げありが

このCD-ROMには、あ
「触手に襲われる女の子」を題材

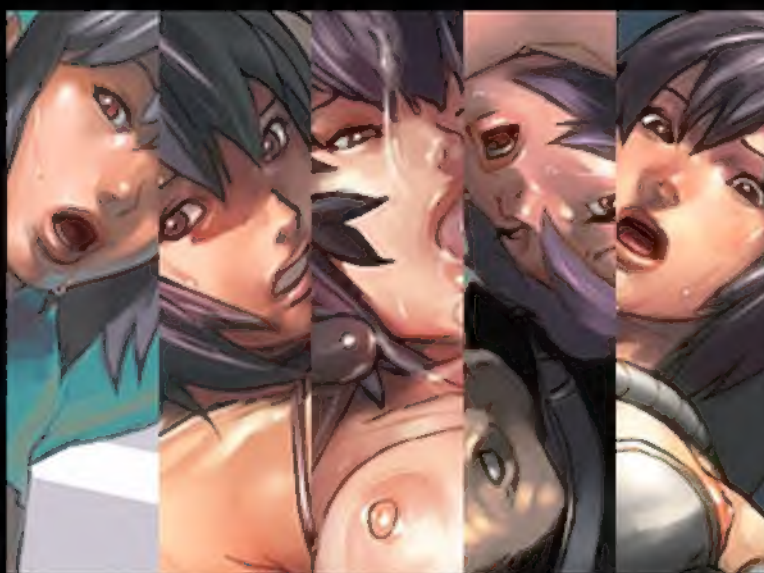
このCD-ROMに掲

18歳未満の方は

また、これらのCGを見て生じ
当方は責を負いかねますので

表示環境は、1024X768ピクセル以

動作確認は、ネットスケープコミュニケーターVer4.7、
フレーム表示非対応のブラウザ(インターネットエクスプロー
は、掲載されている文章・画像・その他は、ありがせしんじ、および、それぞ
掲載されているCGの中に描かれているものはすべてフィク



クリックすると大きな

奥

Staff SINJ

小説作家 B

イラスト JINNY

編集・デジタル加工・HT

パッケージ作成

書名: 攻殻○動

管理者: LalitaChannel <http://www111.sakura.ne.jp>

2006年8月



ありがとうございます。

かりがせしんじが製作した
としたCGが収録されています。

載されているCGは、
閲覧いただけません。
たいかなる問題に対しても、
、あらかじめご了承ください。

上 24ビットカラー以上 を推奨します。

インターネットエクスプローラーVer5.0で行っています。
ラーVer2.0等)では、正しく表示できない場合があります。
れの制作者様に著作権がありますので、無断利用、転載等はお控えくださ
しヨソで、実在の個人・団体等とは何ら関係がありません。



画像が現われます

付

I・ARIGASE

lack-Ox様

美 FANTOM様

ML作成: SINJI・ARIGASE

: SINJI・ARIGASE

多はあはあCG集

✓ arigase/ arigase@pastel.ocn.ne.jp ありがせしんじ

113日発行

IEKO SOFT

Girls Soft Circle
Copyright (C) 2003/2004

お買い上げありが

このCD-ROMには、あ
「触手に襲われる女の子」を題材

このCD-ROMに掲

18歳未満の方は

また、これらのCGを見て生じ
当方は責を負いかねますので

表示環境は、1024X768ピクセル以

動作確認は、ネットスケープコミュニケーターVer4.7、
フレーム表示非対応のブラウザ(インターネットエクスプロー
と、掲載されている文章・画像・その他は、ありがせしんじ、および、それぞ
掲載されているCGの中に描かれているものはすべてフィク



クリックすると大きな

奥

Staff SINJ

小説作家 B

イラスト JIMMY

編集・デジタル加工・HT

パッケージ作成

書名: 攻殻○動

管理者: LolitaChannel <http://www111.sakura.ne.jp>

2006年8月



ありがとうございます。

リがせしんじが製作した
としたCGが収録されています。

載されているCGは、
閲覧いただけません。
たいかなる問題に対しても、
、あらかじめご了承ください。

上 24ビットカラー以上 を推奨します。

インターネットエクスプローラーVer5.0で行っています。
ラーVer2.0等)では、正しく表示できない場合があります。
れの制作者様に著作権がありますので、無断利用、転載等はお控えくださ
しヨソで、実在の個人・団体等とは何ら関係がありません。



画像が現われます

付

I・ARIGASE

lack-Ox様

美 FANTOM様

ML作成: SINJI・ARIGASE

: SINJI・ARIGASE

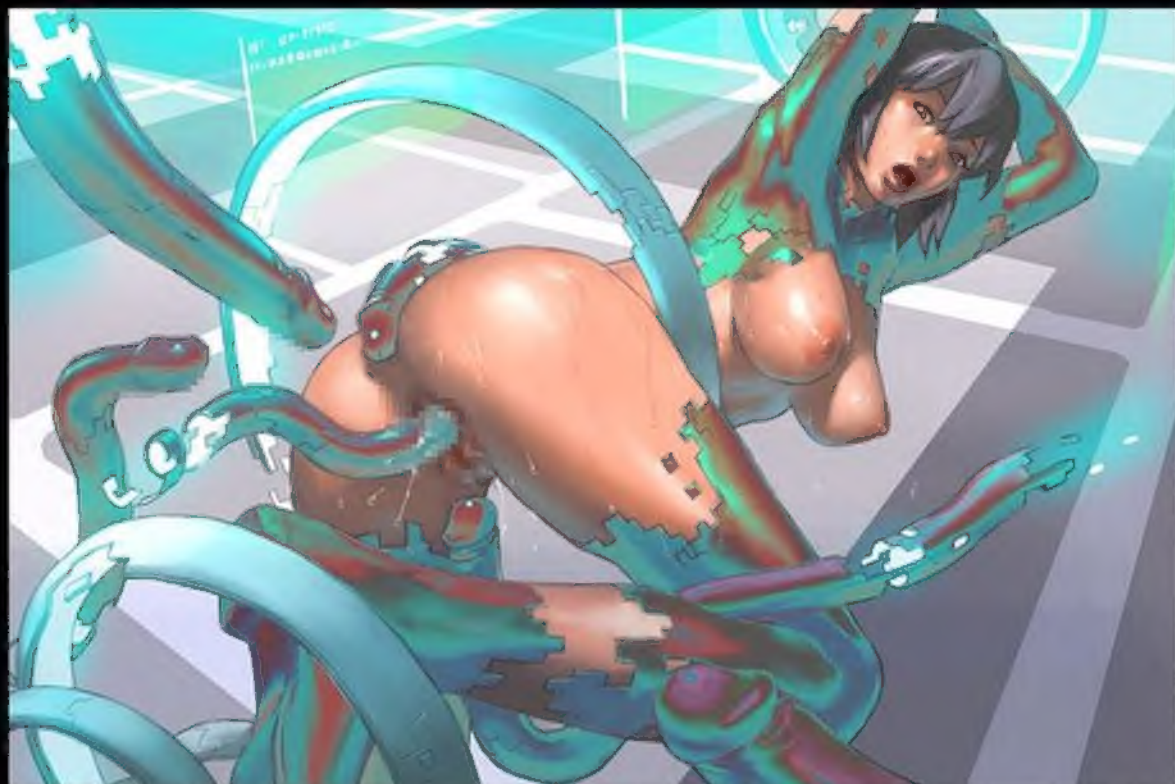
夢はあはあCG集

✓ arigase/ arigase@pastel.ocn.ne.jp ありがせしんじ

113日発行

IEKO SOFT

Girls Soft Circle
Copyright (C) 2003/2004



「電脳内で防壁を組み上げ、素子は一意づく。
大した物ではない。最近彼女に対して執拗にゴーストハックを仕掛けてくる相手に対する一種の脅しのために作った。一種の防壁迷路だ。もっ
壁を恐れてすぐに退散した。それが徐々に慣れたのか攻撃防壁と「遊ぶ」かのように、攻撃防壁によって自分の電脳がダメージを受ける寸前に
防壁からの反撃をかわしているだけで、特に害らしい害はない。しかし、こうたびたび防壁に接触されると鬱陶しいことこの上ない。そこで、相手
イブから、慎重にも張り巡らせたうちの表層部の軽い攻撃防壁とはいえ、素子自身が組み上げた防壁を相手に遊んでいるのだ。筋が良いのだ？」
「決して対少女用防壁迷路を組んだのだ。」

「ちょっとキツイお仕置きだけど、あの子将来のためよ」

と、一人呟く。年頃の少女にとっては、これほど効く防壁はないだろう。少し意地悪く唇を歪めてしまうほどの自信作だ。

「まあ死ぬような物じゃないけど……全のためテストはするべきね」

自ら作り上げた防壁に自ら接触するべく、AIに防壁を仕込む。それを仮の電脳に見立て、タイプする。

視覚的イメージとして広がる電脳通信空間。隔離されたローカルなネット空間であるがゆえに、素子とAI以外は存在しない。僅かに、彼女とAIの

「さあ、試してみようか」

目の前には、AIに組み込んだ防壁の抽象化されたイメージがまさに壁のように立ち塞がっていた。それは、意図的に彼女の攻撃防壁そのものの

「見た目としては十分凄くないわね」

抑止力として威圧的な壁のイメージをしている防壁は、モノリスのようなその威容でそびえている。素子は、攻撃防壁の姿をした防壁迷路に近
突如、モノリス状であった防壁が霧散するそれは想定通りの動作であった。

「フッ……」

次の瞬間には、彼女の両腕を七色に輝く蛇のようなものが絡め取っていた。一本や二本ではない。擬物化され触手状になった無数の防壁が、
のように溶け落ち、肌が露わになっていく光景にも似ていた。

「ちょっと悪趣味だったかしらね、この活形」

防壁が姿を変えた無数の触手は、男性器の形に擬物化されていた。これを使う相手である少女くらの年頃には、もっともおぞましく、嫌悪感？

——ヌルルル……

それはまさに蛇のような速さで彼女にまとわりつく。そして、その形状ゆえに、極々自然といったように生肌書き換えられた彼女の擬人化デー

「ううっ……！」

——ニョルッ！ ニョルッ！

擬人化された女体の情報を、男根の姿をした防壁が犯す。それが、彼女が組み上げた防壁の意地の悪い仕組みだった。無数の触手がかわる

「ああああッ、フッ、くふううう……」

電脳が電気刺激によってそのように感じているだけに過ぎないその快感ではあるが、快感であることには変わりない。素子は防壁触手の人体

——ニョルッニョルッニョルッニョルッ！！

防壁触手の森は徐々に荒々しくなっていく。先を争うように素子の中へ入り込み、その高いカリ溝で膣内を掻きむしる。その、人間ではあり得

「くはああああッ——ッ！ イクッ、イク——ッ！」

それは一気に沸き立って溢れ出す。絶頂はさながら大きな波のように押し寄せ、官能に素子を飲み込む。彼女が達したことを悟ってか、防壁触

「……」

電脳空間から現実へと立ち戻った素子は大きくため息を、快楽のため息を一つ漏らした。ふと、自らの両足の付け根に目をやる。

「これはちょっと、子供には効きすぎる薬かしらね……」

体を預けたリクライニング式のチェアからポタポタと滴り落ちるほど、秘裂から溢れ出した体液が大量に分泌されていた。

ともそれが、ゴーストハックを目的にしているようではない。様子だったので最初は放っておいたのだが、初めはゴーストに触れる以前に、攻防双方の攻撃をかわして逃げるといふ行為を繰り返しているのだ。そのゴーストをいわば逆探知してみてもいいのは、その相手というのが女だったこと。それも、十代の半ばほどの少女だ。面白半分のゴーストだろう。しかし、一歩間違えば命がない危険極まりない遊びに興じるこの少女に、少しキツイ炎を燃えるため、わざわざ非番のプライベートな時間を

空間にのみ存在する海にも創たネット空間で、彼女の情報は擬人化されて漂う。

といったように擬装されている。あの少女を真にかけるためだ。

火。防壁の動作距離は常にランダムだ。それがどのようなものであるかを知っている彼女だからこそ、ここまで不用意に近づく。

彼女の擬人化データ上のメタリックなウェアスーツにも似た外見的データを、生々しい生肌へと書き換えていく。それはさながら着衣が絵の具

を抱くであろう物体として選んだわけだが、それ以上にこの形状であることの意味がある。

タの秘部に滑り込んだ。

あがる秘裂に滑り込んで、うねうねと軟体動物的に動く。それは彼女の電脳を刺激し、実体が知覚されているのと同じ感覚を与えていた。

ではあり得ないその動きに筋肉をかき回される感覚に身悶える。

ズル、電脳ネット内だからこそ可能な勝手に、彼女はソワソワと湧き上がってくる絶頂感を押さえきれなかった。

彼手達は一声に素子の体を離れると、元のモリスのような姿へと還る。

して出回らないアンオブ超々高性能義体。こちらはレアリティ価値も高まえて、一千万円からのスタート、一千万円単位での
の興味を引いた。オークションステージの上の一点に、注目せよと言わんばかりに明かりが集まる。

ニーブーツ、そして性器を包み隠すという本来の役目を放棄したかのように大きく開口したレザーのショーツを身に纏う女サイボーグの姿があっ

々事、明かりだけで照らされ、ほぼ暗闇に近い。しかし、全身義体である素子にとってはそれはさして問題ではなかった。義眼から入る視覚情

りだということだ。
ない人間の人身売買の場であった。外部との無線通信は完全に遮断されたこの空間には、古奥的な潜入捜査のみが有効な手段だったかため

たければ、一つデモンストレーションなどいじりたいと思いますがいかがでしょうか」

方でのやらせなどが無いことを証明させて頂くため、お客様の中から無作為に二名選ばせていただきお手伝いをお願いいたしま

ると同時に、隠れできなかったなりに、害を及ぼさせるためのアトラクションでもあるのだ。

の良さを他のお客様にお伝えしていただきたいと思ひます」

がった初老の政界の大物。どちらも下卑た笑みを浮かべて、さも楽しげに素子の前に立った。

ンオブらしい高級感がありますな」

息を飲む。

る。

乳輪の線をなぞるように円を描くと、素子はブルリと肩を震わせて悶えた。

は市販の重産義体では絶対に及ばない素晴らしい物です」

ドーを素子の中に埋める。

ながされ、彼女は身を振って快感に耐える。

れた。

りと弛緩した。

の視覚情報から割り出されたオークション参加者達は一人として残ることなく逮捕されることとなる。





「不道徳だよ……なんとも色っぽい格好してるよな」
 「あぁ……たまんねえ」
 それは電線通信でかわされた言葉だった。使う、所轄の警官の目の前には、ゴーストダイブ中の素子の姿があった。能がりなりにも警官らしく「俺は知らないんだが——ゴーストハックしてる時ってのは自分の体はどうなってるのかね？」
 「少しは知覚があるらしいけど、他人の電線に入り込んでるわけだから……自分の体まで面倒見切れないんじゃないのか？」
 しれど沈黙。そして喉を飲む音。
 「お前、何考えてた？」
 「お前こそ」
 どちらともなく、視線がほとんど隠す物なく曝け出されたむっちりとした彼女の尻に向く。そこから奥挖出しの背中を揉めるように上がり、ケープ！
 「へへ……すげえイイ所してるぜ、この尻にぶっかけてよー」
 「……やっちゃうか？」
 「や、やばいぞさすがに……」
 とはいふものの、目の前で無防備に晒されている極上の素体は、欲望を掻き立ててやまない。見るだけで脳内に充血を促すその卑猥な肉体。
 「……だいたい公安の女がこんな格好してるのがおかしいぞ。誘ってるんだぜ。露出狂の要態スケベ女に違いなないぜ」
 「いいいわれてみれば、こんな格好普通じゃねえよな……」
 同僚のその言葉に、警官は御都合主義的になっとくしてしまう。
 「俺はやるぜ……お前はやらねえなら黙って見てろ」
 体格のいい中年警官は、腰に下げた対サイボーグ用手錠を取り出すと、素子の両手にそれををはめる。その瞬間ピクリと反応した素子に狼狽え
 然を覚える。
 「おう、さっそくくそ公安の牝豚」
 素子の体を抱え上げると、そのまま肉穴に肉棒を押し込んだ。
 ——グボッグボッ——
 強烈にピストンを加え、膣内をえぐる。ほとんど濡れている膣内だったが、動かすうちに少しずつぬめりを帯び、中年警官の腰の動きも滑らか
 「おお、こいつはすげえ……生身の女とは全く別ものの具合の良さだぜ」
 無遠慮に腰を突き上げる警官は、その名器ぶりに感嘆する。粘り着くように肉棒を包む粘膜の感触、うねうわと動く膣肉は、極上の快感を生み
 「う、うお……」
 ひたすら欲望と本能のまま、腰が動くに任せて素子の中を突進。ただ快楽をむさぼるだけのそれは、絶頂へと一気に押し上げる。
 「イクイクイクイク！」
 さながら蒸気機関のように力強く、猛烈な勢いのピストンで一気に射精まで持ち上げていく。
 ——ビュルビュルビュルッ！——
 送る男汁は、一気に素子の膣内を満たし、取まりきれない物があるふれ出た。
 「へへ、こいつはイイぜ、最高級の素体だぜ」
 ゴーストにダイブしている素子は人形に近く、さながら前世紀のダッチワイフのように扱われていた。
 「お、俺にもやらせてくれ」
 それまでたて見ているばかりだった同僚の警官も、いよいよ欲望に抑えが効かず、スラックスを脱いで最大限に勃起した物を取り出す。
 「おう、やれやれ」
 中年警官が素子からペニスを抜き取ると、入れ替わりに勃起を突っ込んだ。まるで極上のおもちゃを手に入れたかのように、警官達は後先考
 「人がタイプに思いついてからってAとってBとってCとって……」
 最初の、警官二人の電線通信を傍受した時から素子は気づいていた。だが、気の抜けぬゴーストハックの最中であるがゆえに甘んじて隠密
 所轄の警官二人が警戒免責を被ったのは、後日まもろのことである。

らぬ極度に露出過剰なその着衣は、警官達の欲情をそそる。

しが接続された首筋のインターフェイスジャックに至る。

そして露出狂じみたフェティッシュな着衣。見ようによっては意図的に誘っているとすら思える。

ながらも、辛抱堪らんといわんばかりにスラックスと下着を脱ぎ落とレベニスを取り出す。既に半ば挿入したそれを手でしごきを入れ、臨戦態

びになっていく。

出していた。

えず黒子を見る。

を許していただけた。



「ただいまー」
その日、ラボに送られていたタチコマが9課に復帰した。暴走し、一部回路が焼き切れた目付きの戦体だ。意気揚々といったように、格納庫に「あれえー？ お出迎え無し？」
格納庫をローラーダッシュで一周するタチコマだが、やはり誰もいない。
「作戦に出たのかよー」

「そうよ」
不意の声に、タチコマはくると反転して振り返る。そこに居たのは、全身戦体のサイボーグ。冷徹な視線を向ける彼女は、ツカツカとタチコマに「タチコマ……」

「はッ、はいッ！」
タチコマの直前まで歩み寄った素子は、タチコマのマニピュレーターの間に体を入れる。

「お前のこの太いモノで私を抱かせてちょうだいー」

「えええー?! ってコレなにー?」

二本のマニピュレーターの間、グレネードランチャーであったはずのそこが、ゴツゴツとした逞しい金属製のアームとなっていた。

「さ、なにをされている——私の準備は出来ているぞ」

そう言った彼女はボディスーツ状の着衣の下半分を折り捨て、下半身を露わにする。そこは既に腰を濡るほどに体液が溢れていた。

「しよ、しよ、しよ、少佐〜!」

有線通信ケーブルを伸ばし、素子の体を絡め取る。本来非力であるケーブルを何本も使い、彼女を金属製のアームの上に持ち上げた。

「いっわ、入れてちょうだいタチコマ」

「は、はいー! よろこんでー!」

ケーブルで持ち上げた素子の体を、アーム口に向けて下ろす。

——ぐちゅッ!

ゼリーを握りつぶしたような音を立てて、アームが素子の体内に入り込む。結合部分から汁が溢れ、タチコマのボディを伝って流れ落ちる。アームは

「あああああ——! イイイイわーイイわータチコマ! もらっ、もっと動かして」

素子の求めるままに、タチコマはアームを高速でピストン運動させ、膣液を掻き出すかのように犯す。ピストンのスピードが増すほどに素子の声

「ひいひいひいひいひいひいひいシンシンシン——! もうイクッ、もうイクわタチコマ! イクううう——!」

爪先をピンと伸ばした素子が、アクメに際高く歓喜の声を上げた。素子をイかせたという満足感が、タチコマのAIに不可思議な感覚を生み

「おい、タチコマ!」

「……ハッ!」

見慣れた格納庫、目のような球形の外部観測機器に映るのは、格納庫の壁と自分を見つめる素子と9課の面々。そして、エンジニア達の姿だ

「コイツが、ラボから戻ってきてまだ並列化中に原因不明のエラーを起こすな」

壁面のイカワが、肩を揺れている。

「あれ……? ボクのカデンコチンの太いアームは……? あら?」

「おこ言ってるお前——」

ストーリーが進行する中でタチコマの“目”を覗き込みながら、ゴコンと外装甲を叩く。さながら、親子の悪い家電製品を叩いて直す前世紀生みたい

夢でも見た人じゃないの」

目を締め、冷笑めいた微笑みを浮かべた素子が言うと、その場に居合わせた面々が吹き出す。

「AIは電気羊の夢を見るか? ってか」

滑り込む。が、そこに他のタチコマの姿はなく、9課の人間の姿もなかった。

歩み寄る。その冷たい視線は戦慄を覚えさせ、タチコマは四本の足でジリジリと後ずさ

ムのピストンに合わせて、止めどなく流れ落ちる汁がピチャピチャと飛び散って床を汚す

は甲高く上擦り、義体がビクビクと跳ねる。

出す。

った。

の老人のように。

く、並列化作業中のタチコマ達は沈黙しており、格納庫は静寂に支配されている。

弾んでいた。

「ぞか思考戦車に取り付け可能な謎の仕様！」 少佐は女性型の義体だから、ボクがこれを装着すればドッキングできるんですよ

言葉を聞き流し、背を向けた。

ト。それはタチコマのAIに介入し、その思考を暴走させる。

に不意を衝かされた形の素子は、さながら牡犬にのし掛かられる牝犬のようにつんのめり、床に四肢を着いた。

もそもそと動き回る。

た。それは、内部から滲み出しているのか、パイブレーター全体がねっとりとした粘液をまとい、ヌルヌルとしたグロテスクな光沢を放つ。マニピ

タチコマからの電源供給を受けて凄まじい振動を起こす。

た。

着き付き、全身の性感を生み出す部位を貫き立てる。

き付くような感覚を覚えながらアクメに義体を重畳させる。と、同時に暴走したタチコマもまた回路をショートさせ、機能を停止していた。
に失われ、真相は謎のままとなっている。



ただ、一心不乱に腰を振り立てていた。部分義体化された分厚い筋肉に包まれた男の上で、素子はその完全なる美を備えた全身義体を誇らせ

「素子、素子……」
素子に乗せた軽根の大男が唸った。人造の粘膜組織と筋肉によって作られた女性性に食い締められたペニスが、生身の女体では到底できな

「今は素子でいいわ——、それこそで済ませるのね、まるで男じゃないところで聞いて寝んだような気分よ」

その荒々しい使いいに見合わない淡々とした声で彼女は呟き、自嘲気味に艶やかな笑みを浮かべた。

それは原始的なウィルス拡散方法だった。圧縮されたデータの中に温入したウィルスが、そのデータが解凍されると同時に感染するという古い

目になっている。ともすれば、電脳から発せられる下卑た欲求に、道行く見ず知らずの男ですら路地裏に連れ込みたくなる衝動に駆られる至理

「素子……」
呻く彼の、その体格に見合うだけの隆々とした遺物をくわえ込んだ下半身は、彼女の理性を無視して動じかに上下動を際限なく繰り返す。疲れ

から発せられ、脳へと伝達される官能は紛うことなき本物だ。

——パンッパンッパンッパンッパンッ!!

「んおおおおおっ——!!」
自らの意志とは関係なく動き続ける腰。極太のペニスが膣内を猛然と掻き擦るその刺激が止まることなく襲い来る。脳幹が焼き切れそうな快

「あゝイイ、イイわ——!! もっと奥まで、奥まで穿って」

ウィルスによって催している欲情であったものは、時間が経つうちに自らが自発的に催しているものと区別がつかなくなっていく。腰の深部まで

全てが計算されて作り上げられた。芸術品にも相当する義体。彼女を女たらしめている乳房や尻の丸みは、いやらしさまでも計算に入れられて

「素子……」
筋骨隆々とした彼の手が、男を悦ばせるためだけに動き続ける尻を驚愕みこ。彼女の胸元で巨大な水風船のごとく揺れ動く乳腺を握る。

「出るのね——!! いいね、出して、奥に流し込んで——!!」

——ぶひゅっ!! ひゅるっ!! ひゅるっ!!

その言葉のままに、膣奥深く穿ち出されるスペルマ。その焼けるような温度を感じながら、素子は彼の顔を抱いて囁く。

「ウィルスを完全に感染するまでもうしばらくの間、ウィルスに感染された快楽を満喫しようじゃない——!!」

る。

いであろう締め付けを受け、その快感が脳髄ばかりか電脳までも痺れさせるような錯覚を起こす。

手法。原始的であるがゆえに最先端の防壁をすり抜けたウィルスに感染した素子は、その愉快犯的なウィルスによって淫売の真似事をする羽目なウィルス。彼女がそれへの応急対応として求めたのが藝組の大男、バトーだった。

知らずの藝体は、ただひたすらに快楽信号を素子の電脳、そして生身の脳髄に送り続ける。たとえ藝体、作り物の粘膜や神経であっても、そこ

以来の怒濤に責め続けられる彼女は、吠えようとして歓喜の声を張り上げた。

達してもまだ余りあるバトーのペニスをより深く、更に奥へと素子は求め、その決して垂れることはないであろうその美臀を一層荒々しく振り立てているかのように、卑猥な甘肉を總い、腰の動きに合わせて波打つように揺れる。

の作動開始を知らせる音でもあった。

生身の人間用であるこの程度の拘束など容易く抜け出していたことだろう。しかし、首筋の端子差し込み口から後頭部を覆うようにして装着され

る時は娼婦として奉仕を強要され、またある時には衆人を前にSMショーを公開する。仮想空間の中でのこととはいえ、そのような性体験をさせら

る動きを様々に変えているのだが、それ以上に電腦に広がる仮想空間のイメージがその感触を変えていく。
日本人の女というシチュエーションらしい。体内の淫具は苦しさを感じるほど巨大化し、それが人工粘膜で形成された腔内を掻き乱す。

身である感觸を奏していく。実際には黒人の大男もあらず。女穴に男根が差し込まれているわけでもない。しかし、エンドルルレコーダーがリアル

に内包された子宮をパイプレーターが突き上げ、彼女の下腹部でゴツゴツとした衝突感が起こる。
供のように乱雑に揉みこね回す。

る。そんな素子の感覚を、エンドルルレコーダーが末すことなく記録していく。
るを加えた。電腦が充電したようにどりどりと痺れる感覚を覚えると同時に、素子は一気に絶頂へと押し上げられる。

動しているだけであろうそれも、電腦が直接感ずる電腦ファックではまさに生身の腔内射精に感ずられる。黒い巨大ペニスがドクドクと脈打ち、胎
ことなくエンドルルに記録される。彼女の身体と電腦が生み出した、その他に何れよりも1秒間で鮮烈な快感を与えてくれる最高級のエンドルル



組み敷かれた素子の義体が悲鳴を上げていた。
相手は全身義体の男達。その尋常で入る「ワ」の前に、彼女の高性能義体もまるで子供のように抵抗の術もなく押さえ付けられる。
「なんだこいつ？ 重産型の義体みてえに見えるが、スキンなんかそこのファンオフ義体より上等だぜ兄貴」
「ははぁ……てめえ、目撃証が重要か関係者だな。隠れたことがあるぜ。公衆場で武力行使するようにどこにいる義体使い」
「匿名者……種分と物知りね。そんな不審工な義体にしておへのは勿体ないわ」
「敵ついでに随分と博識な男は、素子の正体を看破して得意げににんまりと唇を歪めた。全身義体の男は、顔など後付の作り物に過ぎず」
「素子の関係者ってことは、何達がという人間で何をしてるかってのもかも全て早知ってわけだ」
「ええ、定きた。全身義体を抱腹して、恥部を取り出して重産する違法義体ブローカー。しかも、女性タイプの義体専門で、恥部が」
「へへへ、その通りで、てめえは今、裏にもその仲達の手の内にあるってわけだ。しかしサツも聞かされたぜ。わざわざ女をよこ」
「べつべつとよく口の回る男は、素子の義体を握めるように視線で犯す。生身の体でも滅多に作り出せないように下卑た表情がその顔には浮か」
「兄貴、さっさとやろうぜ。こんな公給品の上等義体、きつとあっちも規格外の上等なもんだろうしょ、もうたまんねえぜ」
「スキンヘッドの義体の男が、待ちきれぬとばかりに組み伏せた素子の太腿に頬をすり寄せた。隣に感じる人工皮膚の感触は、お世辞にも心」
「そうだな、こいつで新演での仕事は最後だ。最後くらいぶっ壊して楽しむとするか」
「言うが早いや、新演陣々とした全身義体男達の手が彼女の体を包む露出過多の着衣を乱す。胸を覆っていた合成繊維のバストカップはすり」
「へへ、兄貴見ろよ、思った通りこっちもイイもん付けてるぜ。高級娯楽でも滅多に着てねえような粘膜だ」
「露わになった彼女の性器を全身義体の男の一人が指で広げると、義体後輩団達はそこを覗き込む。そして一緒に、はぁ、と感嘆ととれる声」
「新日バイオのSFM-30HGか？ シュースキンのFH2センサーか？」
「単純に、女性器というだけで彼等の関心を引いたわけではなからう。義体を売り物にする彼等らしく、彼女の義体に使われている粘膜組織を」
「こいつはハム心地も厚さだろうぜ、どう見たってそこの粘膜の義体よりイイもん使ってるからな」
「ニヤニヤと唇を歪めながら、兄貴と呼ばれていた男がカーゴパンツを下ろし、男根を露出する。

覚悟はしていたものの、いざ男根を目にすると思わず息を呑む。義体であることを示すかのように、スイッチが入ったように急激に勃起する人」
「じゃあまず俺から味見だ、公給品のマンコがどんな具合か、試させてもらうぜ」
「フックと唇を主犯の女性器粘膜に吐きかけると、そこに亀頭が押し当てられる。十分とは言い難いながらも潤滑を得たペニスの先端は、」
「くっくく」
「低く仰ぐ彼女の様子を楽しむように、男はゆっくりと腰を押し進める。並のサイズよりも大きいそれは、粘膜穴を押し広げながら奥へ奥へとめ」
「おおおーこり、すげえ、極上もんだぜこいつは、マンコまで規格外の絶品だ」

「グチャ、グチャ……」
「腰を回し、腔奥を混ぜるように男根を動かす。半ば義体自身の防衛本能的に、腔奥から滲み出す粘液が、少しずつ音を立て始めていた」
「順番が回ってくるまで待ってられねえや、おい女、口でやれよ」
「じゃあ俺は手でもらうっか」
「義体後輩団達の連しい義体が、素子の均整の取れた義体に群がる。彼女は目が回るような圧辱感に可まねながら、何本もの男根が発する熱」
「一発、二発と吐き出される精液に刺された疑似体液。体、口、腔内に、所構わず素子を挿し込む。義体の鋭敏な感覚が捉えるその感触に、」

の中に、市販素体をベースのカスタム素体使ってる。奴がいるってな。俺らの周りを嗅ぎ回ってるってことは、大方警察の犬だ

。本来生まれ持った顔はその博識に見合うだけの理知的な物だったのかも知れないが、

「取り出す「素体」を「改造」する素体改造装置」
してくれるなんてな。そろそろこころでの面笑み、華やかだと思ってた所でよ。最後に良い素体を持ってすらかれそうだな」
と、彼女はその不快感に唇を歪める。

「地味な物ではなく、彼女は、その顔徳りから逃れるように唇を動かす。」

「とされ、股布は横にずらされる。人工物とは思えないほど柔らかく溢れ出した乳房が、ひんやりとした床に触れ、素子はビクリと体を震わせた。
「濡らした。」

「仕度とも興味の対象であるらしかった。その、「物」を見る視線が、素子に得も言われぬ恥辱を味わわせる。」

「このペニス。グンと反り返ったそれは、高く張り出したカサを誇らしく、素子の性器に向けて矛先を向けていた。」

「ズ、ズと素子の膣内に押し込まれていく。」

「力込み。やがてもっとも深いところにとどまり着く。」

「に中てられていく。
「嫌悪と、微かな恍惚を覚えながら、彼女は一時の彼處に享樂していた。」



「シャブっとるだけでこの有様か。申し訳やつめ」
 謝罪しながら、目を覚める。そこには文島自身が分泌する人工的な粘液に濡れ、指先はゆるゆるとなめらかに動く。

「……ち●るっ、ち●るっ、ち●るっち●るっ」
 格闘の前に「いささか」さめの肉棒を、一口に飲み込む。口内に包み込んだそれを、唾液を塗りつけるような舌使いでしゃぶり上げる。パン!

あどろ——欲望に満たされた人間は気が狂い、その願望を作り出すべく、素子はとどめに入る。
チュルッチュルッチュルッポ!

言うが早い。男は彼女の顔を両手で押さえると、自ら腰を揺すって口腔、喉口までも犯すかのように肉棒を突き立てる。

素子の白い臍元がゴクゴクと音を立てる。鼻を衝く臭気を発する汁を飲み干し、彼女がペニスを口から離す。

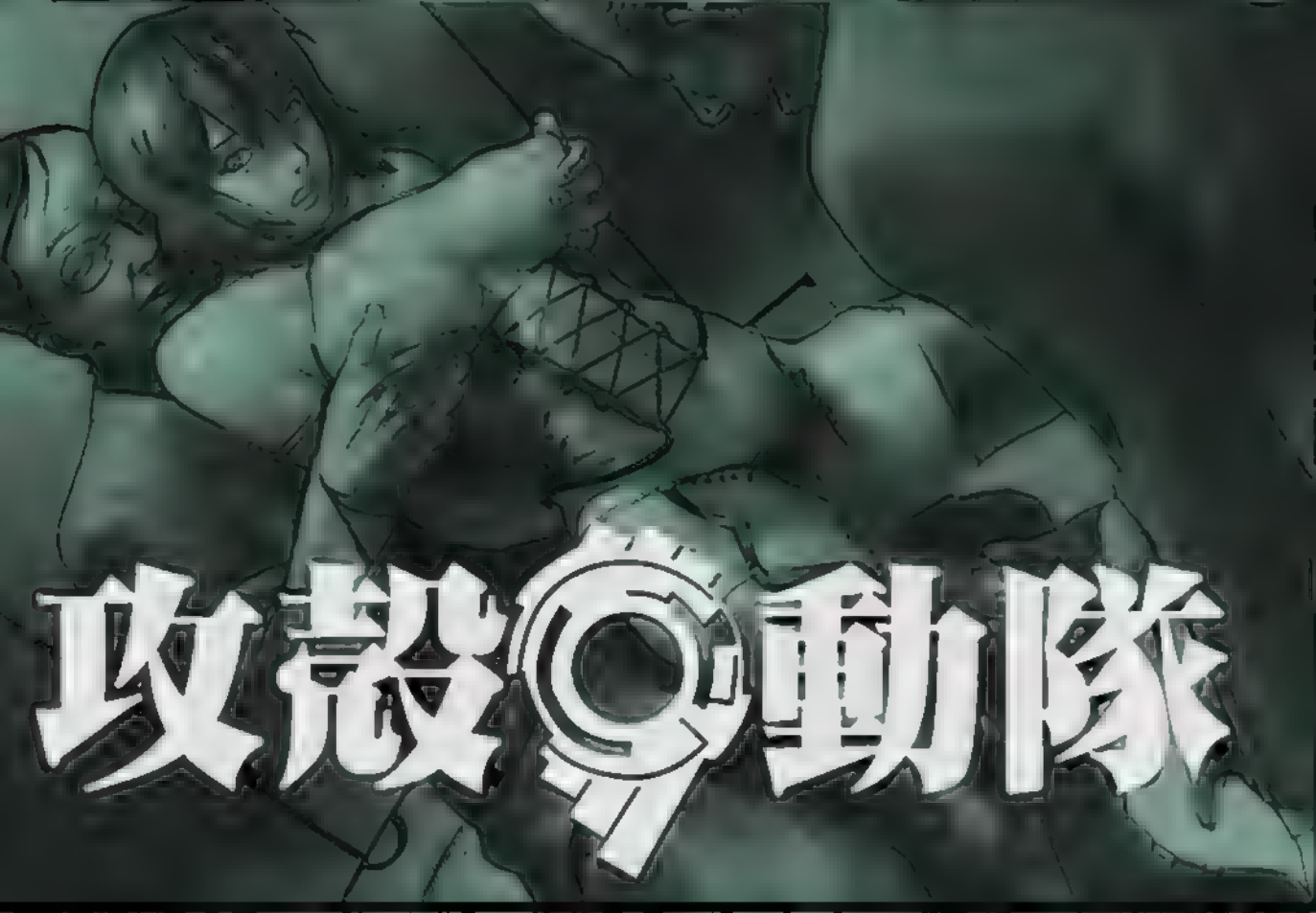
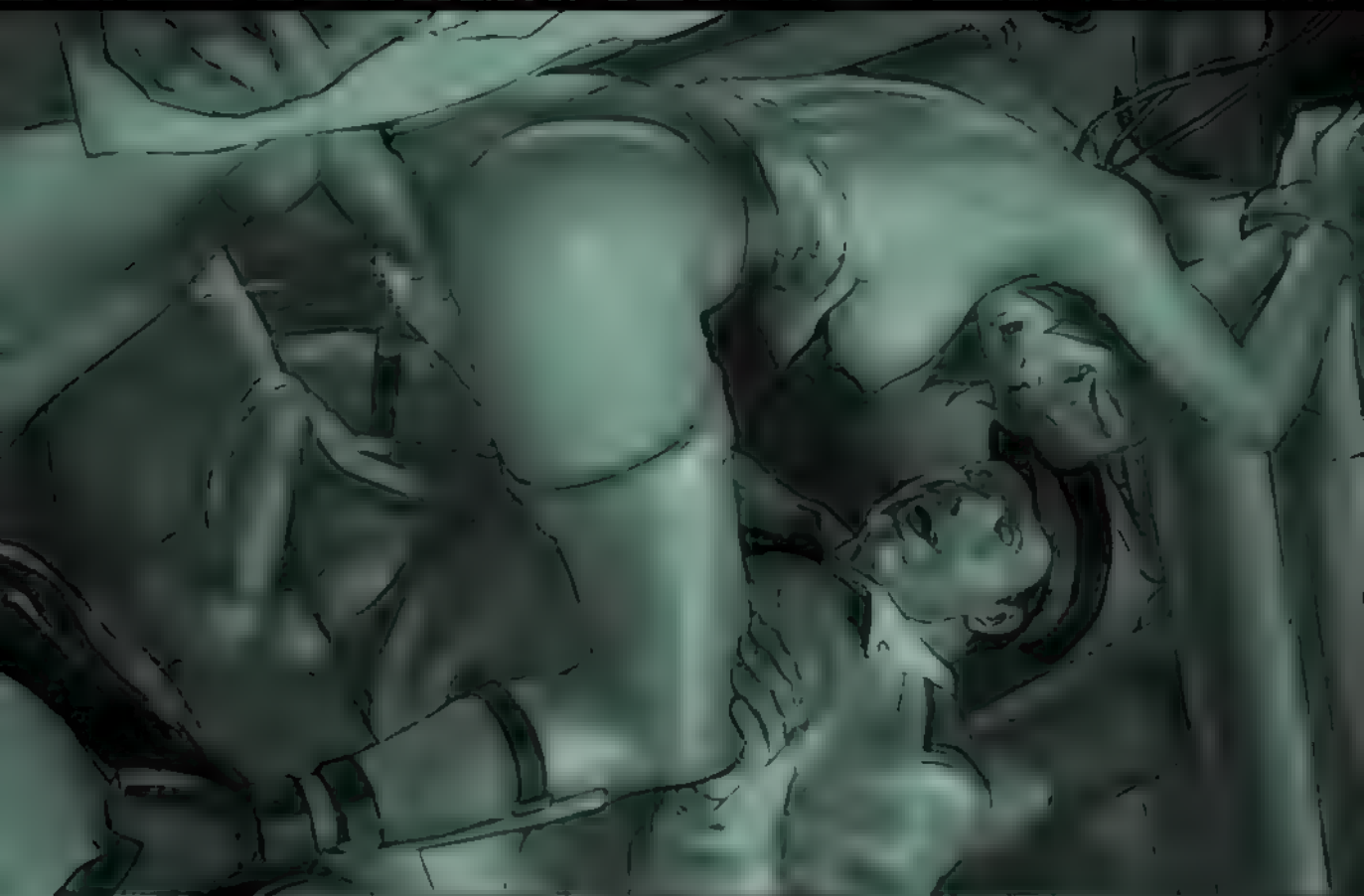
る。一般認知度も高い政治家だろう。そんな男の真の顔がコレだ。

を浮かべた。

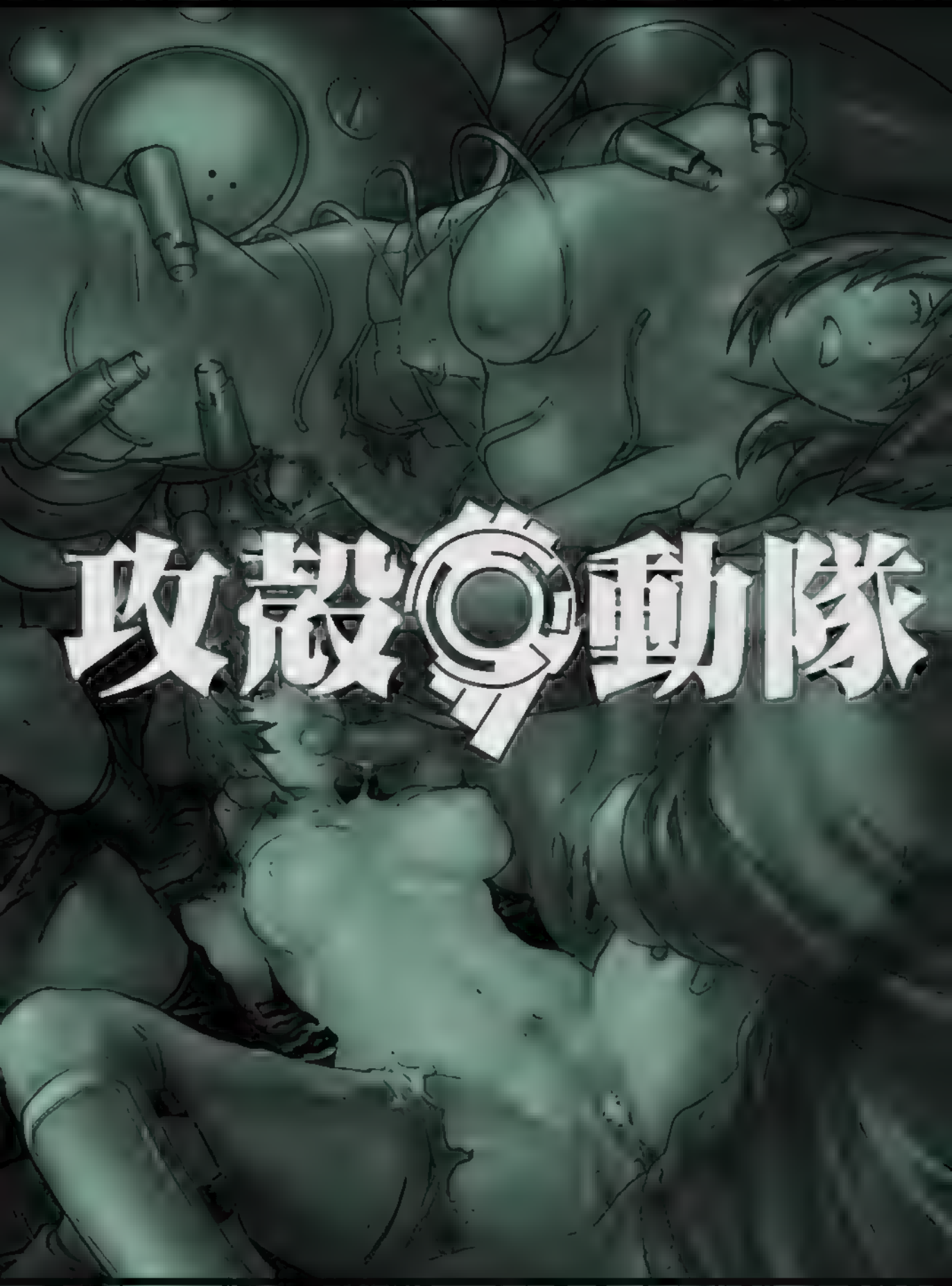
は目撃する。

に張った龜頭を転かし、唇を窄めて竿をしごく。舌と唇がそれぞれまったく別の、時に完全一体の連動を見せ、それまでに男が体験し

品の汚液が混る。



攻殻♀動隊



攻殻機動隊













